

CONTENTS

はじめに — 003

第1章

経済学は何を課題としてきたか ————— 009

- ① 経済学の誕生 — 010
- ② 資本主義の発展と弊害 — 014
- ③ 弊害の克服 — 020
- ④ マルクスが社会主義で目指したもの — 021
- ⑤ ケインズの修正資本主義 — 028
- ⑥ 経済学が目指すもの — 030

第2章

ミクロ経済学 ————— 033

- ① 経済主体とその結びつき — 034
- ② 現代の企業 — 036
- ③ 市場のしくみとはたらき — 046
- ④ 需要と供給がわかれば、経済はわかる — 054
- ⑤ 市場の失敗 — 067

第3章

マクロ経済学 ————— 075

- ① 国内総生産（GDP）とは何か — 076
- ② 不景気はなぜ起きる — 083
- ③ 有効需要管理政策 — 094
- ④ 経済成長 — 104
- ⑤ 戦後日本の経済発展 — 110

第4章

所得格差の経済学 ————— 119

- ① 資本主義と所得格差 — 120

- ② 所得格差の計測 — 127
- ③ 新自由主義の台頭 — 129
- ④ 豊かさのなかの貧困 — 137

第5章

財政 ————— 143

- ① 財政のはたらき — 144
- ② 歳入 — 147
- ③ 歳出 — 161
- ④ 財政投融资（第二の予算） — 163
- ⑤ 公債残高の累増問題 — 168

第6章

金融 ————— 187

- ① お金とは何か — 188
- ② 金融市場のしくみとはたらき — 190
- ③ 銀行の役割と信用創造 — 193
- ④ 日本銀行の役割と金融政策 — 198
- ⑤ 金融の自由化 — 204

第7章

物価 ————— 215

- ① 物価変動が意味すること — 216
- ② インフレーション — 222
- ③ デフレーション — 230
- ④ 日本銀行は物価の番人 — 232

第8章

日本の社会保障制度 ————— 235

- ① 人生におけるリスクと対策 — 236
- ② 社会保障制度の歴史 — 238
- ③ 日本の社会保障制度 — 240
- ④ 今後の課題 — 256

- ① 貿易のあり方 — 262
- ② 国際収支って何? — 271
- ③ 国際通貨制度の変遷 — 277
- ④ 変動相場制 — 283
- ⑤ 地域的経済統合 — 299
- ⑥ 気になる中国経済の動向 — 306
- ⑦ 発展途上国の課題と日本 — 311

おわりに — 319

さらに学びたい人のための図書案内 — 323

索引 — 326

コラム

- メーデーの起源 — 019
- 均衡点がない場合もある — 051
- 政治的景気循環 — 103
- 納税、節税、脱税 — 158
- 特定郵便局の局長は世襲制だった! — 167
- 格付けとデフォルト率 — 182
- 銀行の収益源 — 192
- 民間保険のルーツ — 258
- 為替介入と外貨準備高 — 297
- ODAの実例 — 316